

議長（竹島ユリ子君） 1番 野村信夫君。

1番（野村信夫君） 本日の最終になりましたけれども、私は婚活支援の取り組みについて、行政でも何かできないかと思ひまして質問させていただきます。

未婚の男女の結婚活動いわゆる婚活について、少子化対策の観点からも自治体としても支援が必要ではないかと考え、村長のお考えをお伺いします。

以前であれば、世話好きな人たちのグループがありまして、適齢期の方がおられたらその家へ行って写真なりを持って行ってそういう話もありましたが、最近そういう世話好きな人たちもおられなくなり、若い方に見合いの席をセットするということもなくなりました。

また現在では、そのような状況から、結婚を考えながらも出会いの機会が減少している独身男女の交流を促進することも行政としては必要ではないかと思っております。

最近では、昨年の12月に富山商工会議所の主催で、独身男女向けセミナーと懇親会を開いております。またことしになって2月には、大山総合行政センターの主催でも行われています。両会場とも男性の方の申し込みが多かったそうです。時代の反映なのかそれはわかりませんが。

しかし、そんなことも言っておられないので、もしそういうことをしてカップルができて、結婚ともなれば、家族のために頑張ろうという責任が生まれましようし、村の活性化にもつながるのではないかと思ひまして、村長の考えをお伺いします。

以上です。

議長（竹島ユリ子君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 1番野村議員の婚活支援の取り組みについてお答えしたいと思います。

若人の結婚相談ということで申しわけないのですが、村の今まで続けてきたことについて、若干時代的な背景を織り交ぜながら話をさせていただきたいと思ひます。

結婚相談ということで触れていきますけれども、これは歴史があります。ちょっと申し上げますと、この相談事業に対しては、現在社会福祉協議会が窓口になっておるわけございまして、そういった実態があるわけですがけれども、現実には訪れる方が全くいないということで、休眠状態の状況にあることは間違いございません。

そういうことで現在に至るまでの経緯を申し上げたいと思ひます。

結婚相談事業への取り組みにつきましては、舟橋村社会福祉協議会は昭和47年に任

意団体として役場内に設置されまして、事業量が増加してまいりまして、平成10年には舟橋会館内に事務所を移転いたし、社会福祉事業に携わる方々の熱意等が満たされまして県の支援を得まして、平成12年には社会福祉法人という形で現在に至っているような状況でございます。この間、平成13年度までは、専任の相談員を富山市から招いて、事業を続けておったわけですがけれども、先ほど言ったように相談に来られる方がほとんどいないということがございまして、相談事業は相談員を招聘するのではなく、窓口だけを設置することに切りかえたわけでございます。

そうなりますと必然的に訪ねる人もいないし、PRも不足してまいったわけでございます。しかしながら、舟橋村は小学校も中学校も1校でございまして、その同窓生は皆幼いときからの顔見知りであります。そうなりますと、なかなか相談にどうのこうのと言っても行きにくいとか、いろんな話が出てくるわけございまして、まさしく今野村議員がおっしゃったように、そういう出会いの関係というのは舟橋村は非常にデリケートだという状況にあると思っております。

そうなりますと、いろんな県下のいろんな団体が婚活支援をするというような企画された事業はあると思います。そういった事業の情報を提供して、そういったところへ出かけていただくとか、参加申し込みをされるというのを増やすべきでなからうかと思っておるわけございまして、私は決めではないと思います。決めではないのですが、何かをしないと、今おっしゃったような1組でもカップルが誕生するようなことにもならないと思っているわけでございます。これにつきましては、社会福祉協議会が4月から役場の2階に事務所が移転してまいりますので、傍聴席におられます萩原会長とも十分相談しながら、舟橋村のそういう方々がどのような状況なのかという実態把握も含めて、検討してまいりたい。そして的確な情報を皆さん方に流すことによって、目的が達成されるような環境づくりにも努めてまいりたいと思っておるわけございまして、野村議員のご指摘もなるほどだと思っているわけでございますので、今後ともそのような視点から婚活事業に取り組むといたしますか、そういったことに関心を強く持ってまいりたいと思っております。

そういうことで、私の答弁にさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。